

(技術名) 海洋保護区設置によるハマフエフキ資源の増大							
(要約) ハマフエフキ若齢魚を多獲する場所と時期を限定して、全ての漁法に対して 8-11 月の 4 ヶ月間禁漁区に設定した。1 歳魚に対する漁獲圧が保護区の設定により顕著に減少し、その結果年平均漁獲量が 5t から 8t に増大した。保護区はハマフエフキの生活史と密接に関わって設定されており、そのため非常に効果的であることが判った。							
水産海洋研究センター 海洋資源・養殖班					連絡先	098-994-3593	
部会名	水産業	専門	資源管理	対象	ハマフエフキ	分類	普及
普及対象地域							

[背景・ねらい]

沖縄島北部の今帰仁・羽地海域ではハマフエフキ若齢魚の漁獲が非常に多かった。そこでハマフエフキ若齢魚が多く分布する範囲が保護区に設定された（面積約 4 平方キロ：地域漁業者の自主禁漁）。この保護区の設定と前後してハマフエフキの漁獲量は約 5 割増大した。この漁獲量の増大が保護区の効果であることを検証する必要がある。

[成果の内容・特徴]

1. 対象海域から漁獲されたハマフエフキの体長を測定し年齢組成へと変換した。また沖縄県水産海洋研究センター漁獲統計データから対象海域の漁獲量と併せて、年齢別漁獲尾数を約 20 年分集計した。
2. 対象海域の年平均漁獲量は保護区の設定に伴い 5t から 8t に増大した。ハマフエフキ推定資源量は保護区設定前が約 15t であったが、設定後には約 20t へと増大した。
3. 1 歳魚の漁獲による死亡の割合は設定前は 0.5 から 0.8 の範囲内であったのに対し（標準的な加入量の時）、設定後には 0.2 から 0.5 の範囲へと明らかな減少を示した。
4. 保護区はハマフエフキ資源を明瞭に増大させていることが明らかとなった。

[成果の活用面・留意点]

大きく成長する種で小型のうちから漁獲対象となっている種があるならば、体長制限あるいは、小型魚が多く漁獲される場所を禁漁区域設定すれば、同様の効果が得られると期待できる。

[具体的データ]

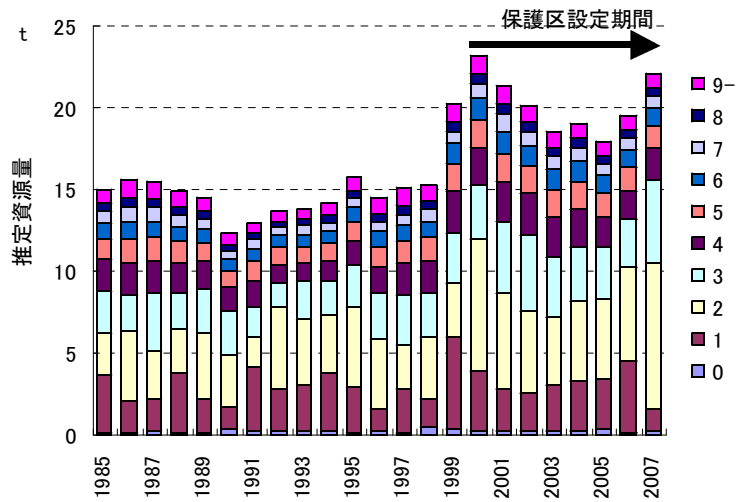


図1 ハマフエフキの年齢別推定資源量の推移

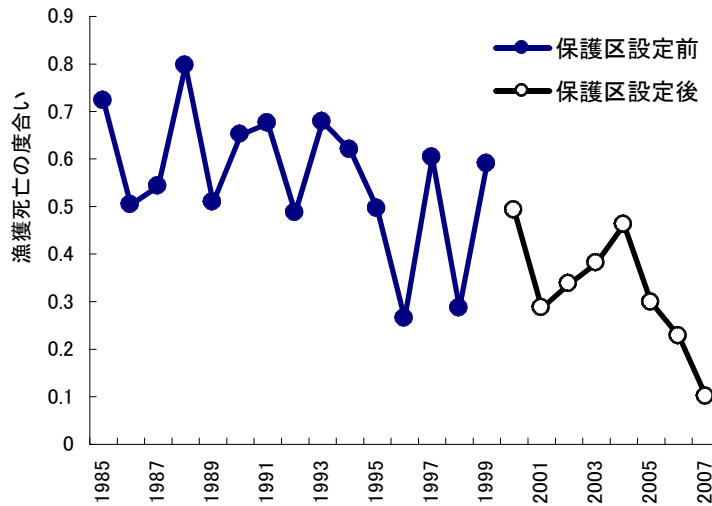


図2 ハマフエフキ1歳魚に加わる漁獲死亡の割合の推移
(保護区設定前の1996年と1998年に小さい値なのは、1995年と1997年産まれ群が非常に小さい年級群であったことが原因)

[その他]

研究課題名：海洋保護区の設置効果に関する研究調査（シラヒゲウニ）

予算区分：委託

研究期間：平成18年度～平成19年度

研究担当者：玉城信

発表論文等：平成19年度亜熱帯島興域における統合的沿岸・流域・森林管理に関する研究推進事業報告書